

家庭料理と真心をご近所に届ける

ー 家庭のシェフとグルメ達の懸け橋 *Foody Buddy* ー

皆さんは奥様（またはご主人）が作る料理が美味しかった時、「これ、イケるじゃん！」「これならレストランでも出せるよ」などと言葉にして感謝しておられるだろうか？ただひたすら食べて終わりでは作る本人は報われない。さて、そのような不満がなくても家族以外にも自慢の手料理を食べて喜んでほしいと密かに思っている人々が多いはずだ。そんな願いを叶えてくれると同時にちょっとした小遣い稼ぎもできるインターネット・プラットフォームの *Foody Buddy* を紹介したい。

Foody は「グルメ」を意味する *foodie* をもじったもので、*Buddy* は「友達」を意味し、ここでは作る側のシェフを指しているようだ。

このスタートアップ企業の創立者は *Rancha Rao* 氏、*Anup Gopinath* 氏、そして *Akil Sethuraman* 氏の 3 人である。

Rancha 氏と *Anup* 氏は Facebook 上のブラウザ・ゲーム、*Farmville* などを手掛ける *Zynga* 社の元同僚、*Akil* 氏は *Rancha* 氏の夫である。当時多忙だった *Rancha* 氏は料理をする時間もなくてレストラン通いの日々であった。自宅の近所からは何やらたまに美味しそうな香りが漂ってくる。そんな中、なにか健康にもよい解決方法がないかと考えあぐんでいた。インドという国は文化的にも料理面でも恵まれた国で、料理人の数も豊富なのに、何故レシピを共有したり、その開発者にコンタクトできるようなプラットフォームがないのだろう、との思いが *Foody Buddy* 創立に結びついたという。

Foody Buddy の仕組みはこうだ。当事者は料理を作る側の *Buddy*（家庭のシェフ）と購入する側の *Foodie*=グルメ客だ。もっとも別にグルメである必要などないのだが。客は *Foody Buddy* が運営する Web サイトで 1,000 種類にもおよぶメニューから好きな料理を選んで注文できる。勿論、専用アプリからの注文も可能だ。一方シェフたちは料理に掛かる時間、盛りの量、メニューや価格を自由に設定できる。作った料理は原則シェフが梱包して届けるか、客が取りに行く。料理を運ぶための業者は存在しない。この仕組みはまさにご近所同士のシェフとグルメ客を結びつけようとするアイデアから生まれている。信頼のおけるシェフから新鮮な手料理を届けてもらうのである。そのため現時点プラットフォームを通じて取引は *Bengaluru* 市内の世帯数 100 戸以上のマンション（共同住宅）内の住民同士に限定されている。シェフが提供したい料理をいつでも簡単にプラットフォーム上に掲載できるように使いやすいインターフェイスが提供されている。

客は料理やシェフの評価 (*rating*) を行うことができるので初めて注文する際の参考になる。さらにシェフが客と個別に会話を交わせる仕組みも備えているようだ。シェフの職業は様々で主婦をはじめ、IT 技術者、大学教授、医者などがいて面白い。

気になる主催者の手数料は、シェフが定める価格（＋その他経費）の 5~10%。2018 年末時点では、100 棟の集合住宅で 1,000 人のシェフが 1 日平均 1,000 食売り上げているとのことだから、1 食平均 200 ルピーと仮定して 1 日の売上合計は 200,000 ルピー、主催者の手数料は 10,000~20,000 ルピーとなる計算だ。金額的にはごく modest という印象だが、お金よりも売手と買手に心安らぐ瞬間を与えることに重きを置いているのだろう。因みに創立以来のべ 20,000 世帯に 250,000 食販売されたという。

2015 年創立、2017 年に法人化した Foody Buddy は、2018 年 12 月に Prime Venture Partners (PVP) 率いる pre-Series A ラウンド^{*1}から 6,000 万ルピー（約 9,360 万円）の出資を受けた。PVP 社にとって食品ベンチャーへの投資は初めてだという。同社の Amit Somani 代表は「Rancha 氏と Anup 氏が Zynga 社で培ったノウハウを、Akil 氏は地元のシェフやコミュニティとの強いつながりもっている。本格的で、気持ちの安らぐような、そして多岐にわたる家庭料理を求める顧客層が拡大する可能性を感じている」と期待を込める。Foody Buddy はこの資金で業容拡大と現在 20 人の社員の増強を図る。Bengaluru での基盤作りが終われば Hyderabad や Pune といった都市にも業容を拡大したい考えだ。

実にほのぼのとした、且つ実用的なシステムだと思う。日本には同様の仕組みがあるだろうか？筆者も様々なレシピを集めた無料のサイトは何度か利用させてもらった経験があるが、写真や動画付きで参考になる。また YouTube でも多数のプロや素人が料理ビデオをアップしているので、にわかシェフには至って便利な世の中である。しかし、Foody Buddy のようにご近所のシェフから有料で手料理まで提供してもらえるサイトはまだ存在していないのではないかな。それはやはり国民性の違いなのだろうか。日本の大規模な団地やマンションでは「階が違えば赤の他人」が一般的なのかもしれない。もしそうだとすれば Foody Buddy のようなシステムが登場することで団地内のご近所同士の絆が強まり、笑顔と活気に満ちたコミュニティに転換できるかもしれない。それが犯罪抑止力にもつながれば一石二鳥である。

—了—

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
本レポートは信頼できるとされる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。

¹ Pre-Series A はベンチャー企業に対する投資の様々な段階の一つ。

1. Seed - Where a very small amount could be invested to get it started or to fuel it for a little long.
2. Angel - Where a adequate amount could be invested to get the already growing pump up.
3. Pre Series A - Where a Decent amount could be invested to Accelerate the already validated Product
4. Series A - On need & for further boost up!
5. Series B - On need & for further boost up!
And list keep on going. (出所：Quora)